

分野： (3) 気管支ぜん息・COPDの動向等に関する調査
① 気管支ぜん息の動向等

(3)-①-(i)

申請課題名： i) ライフサイクルから考えるぜん息の長期予後と寛解・増悪に関わる因子の解明に関する研究

調査研究代表者氏名：藤澤 隆夫

1 評価項目						
5点:大変優れている(A判定) 4点:優れている(B判定) 3点:普通(C判定) 2点:やや劣っている(D判定) 1点:劣っている(E判定)						
	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
(1) 環境保健対策の推進への貢献度	3人	3人	0人	0人	0人	4.50
(2) 研究成果目標の達成度	1人	4人	1人	0人	0人	4.00
(3) 研究計画の妥当性	1人	5人	0人	0人	0人	4.17
(4) 研究内容の独自性	1人	4人	1人	0人	0人	4.00
(5) 社会・経済に対する貢献度	2人	3人	1人	0人	0人	4.17
個別評価(第3評価):(1)(2)(4)(5)の平均						4.17
(6) 総合評価(第2評価)	1人	5人	0人	0人	0人	4.17
全体評価(第1評価):(1)~(6)の平均						4.17

2 記述評価

- ・研究の達成度は高く、ガイドラインに反映できる成果が期待できる。
- ・小児の喘息患者の経過を良くする目的の前向き介入調査を実施することが望まれる。
- ・小児・成人の喘息の長期予後（寛解、増悪）に関わる因子を解明する点。特に長期。
- ・小児6才未満でのICS使用がリスク因子、それだけ重症であるということについて、更に検討を。成人では糖尿病との関連について更に検討を。
- ・小児についてはレトロスペクティブではあるが貴重なデータを解析して有用な成果が得られている。成人についてはレセプトデータの特徴を活かした解析に基づいた成果が得られている。